

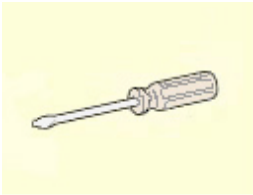
止水栓の止め方と調整方法

止水栓には、故障時に水を止める役割と、水勢を調節する役割があります。

トイレの修理をするときは、まず止水栓を閉めましょう。

うっかり忘れると、作業中にタンクから水があふれて大変です。

■使用する工具



マイナスドライバー

■止水栓の閉め方

止水栓を閉めずに修理作業を始めると、タンクから水があふれることがあります。トイレの修理は必ず止水栓を閉めてから行いましょう。

STEP1:止水栓の位置を確認します

水栓は、タンクへの給水管に付いています。下の図を参考に、位置を確認してください。



タンク密結形便器の場合



ワンピース便器の場合

※ ウォシュレットが付いている場合は、ウォシュレット用の止水栓と間違えないようご注意ください。

STEP2:止水栓を閉めます

止水栓はマイナスドライバーで右(時計まわり)にまわすと閉まります。

■止水栓が見当たらない場合は

タンクまわりに止水栓が見当たらない場合は、家屋全体の元栓で閉めます。

元栓は水道メーターの近くに付いていますが、場所や形は種類や新旧によって違います。

いずれも右にまわすと閉まります。

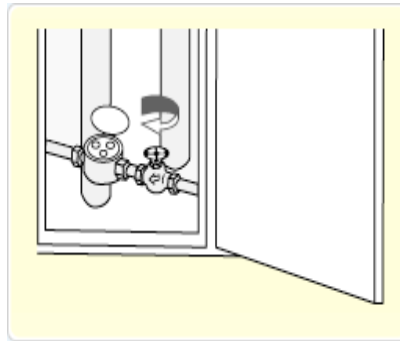
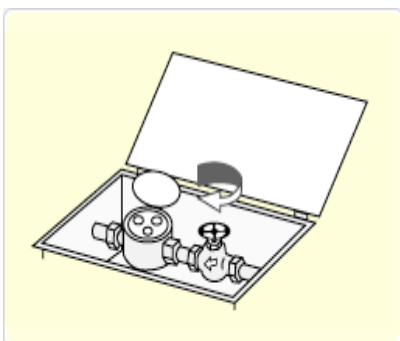
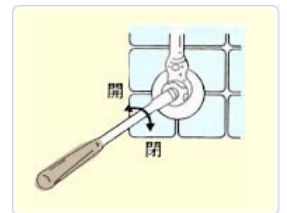
■止水栓が固くて回らない場合は

止水栓が固くて回らない場合は、無理をせずに家屋全体の元栓で閉めます。

(無理に回そうとすると、配管を折ってしまう可能性があります。)

○戸建住宅の場合: 宅地内の地面にあります

○集合住宅の場合: 玄関横のパイプシャフト内にあります



STEP3:修理が終わったら止水栓を開けます

■止水栓の調整方法

万一、故障があって、水が止まらなくなっても、タンクから水があふれないように止水栓の調節をしておきましょう。また、給水音の大きさが気になる時も、止水栓を調節することができます。

※レスティカ・CSRシリーズ(タンクふたの内側に樹脂カバーがあるタイプ)は、止水栓の調節は不要なため、ここではタンクふたの開閉方法のみを記載しています。

STEP1:止水栓の位置を確認します

止水栓の開め方をご覧ください。

STEP2:タンクのふたを開けます

手洗付タンクの場合、ふたを持ち上げるだけで外れるタイプと、タンクふたを持ち上げるだけでは外れないタイプがあります。

<タンクふたを持ち上げるだけでは外れないタイプ>

まずタンクのふたを垂直に持ち上げます。

持ち上げるだけで外れるタイプもあります。

持ち上げるだけで外れないタイプは、手洗金具とボールタップがのじゃばら管で接続されています。この場合は、まずふたを起し、のじゃばら管に接続している部分のナットを、手で左(反時計まわり)にまわすと外れます。



<タンクふたを持ち上げるだけで外れるタイプ>

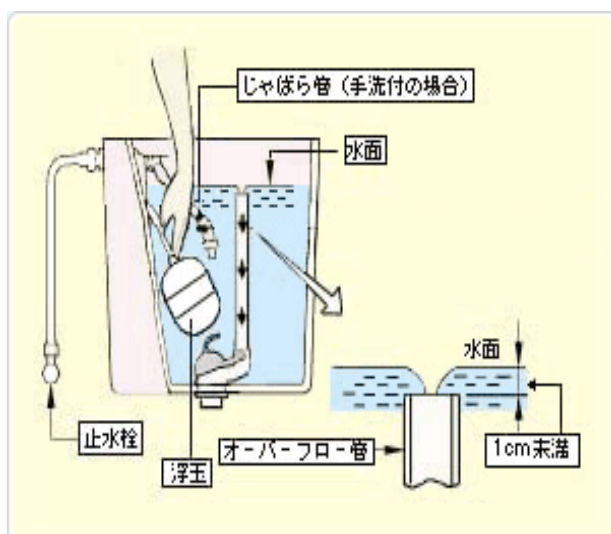
レスティカ・CSRシリーズ(タンクふた内側に樹脂カバーがあるタイプ)の場合

注意 タンクふたは落とさないように注意する
破損してけがをすることがあります。



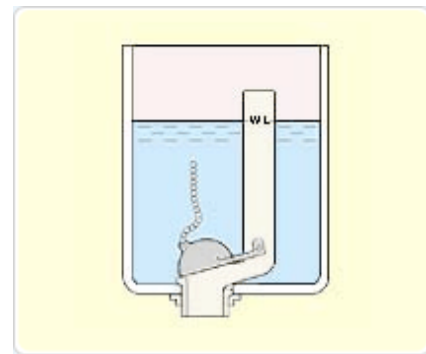
STEP3:止水栓を調節します

浮玉を手で下まで押し下げて、止水栓を徐々に開いてください。この状態で水面がオーバーフロー管より1cm以上、上昇しない程度に止水栓を開け、調節してください。



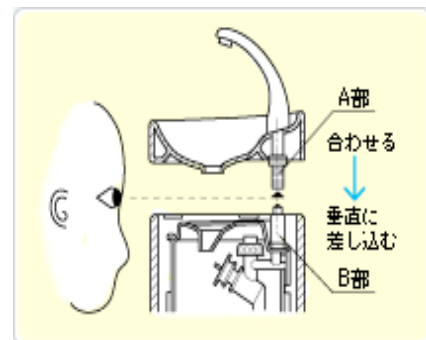
STEP4:タンク内の水位を確認します

タンク内の水位が正常かどうか確認します。正常時の水位は「-WL-」の位置にあります。表示のないものはオーバーフロー管の先端から2~3cm下が正常な水位です。止水栓は、タンクへの給水管に付いています。下の図を参考に、位置を確認してください。



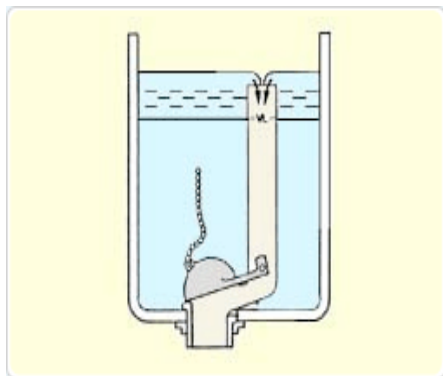
STEP5:タンクのフタを閉めます

レスティカ・CSRシリーズ(タンクふた内側に樹脂カバーのあるタイプ)の場合
手洗付の場合は、A部をB部に差し込んでタンクふたをのせてください。



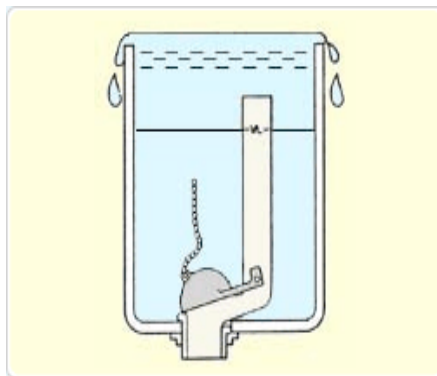
※止水栓の調整が必要な理由は…

● 止水栓が調整されている場合は…



止水栓が調整されていれば、水の勢いが抑えられるため、ボールタップなど、ほかの部分に故障があっても水がタンクの外にあふれることはありません。

● 止水栓が調整されていないと…



止水栓が調整されていないと、排水管から流れ出る量よりタンクに供給される量が多くなる場合があり、タンクの外にあふれることがあります。